

UV・レジンインクの秘める可能性

SC-R5050L は「生産効率の高さと優れた素材対応力」が別格

エプソン販売が展開する商業・産業向けインクジェットプリンターブランド「SureColor」。サイン業界向けの SC-S シリーズは、エコソルベントインクながら水性インクと同等の色の再現性や、発色の良さに加え、高精度のメディア送りによる稼働安定性を武器に、ユーザーからの支持を長年集めてきた。

2020 年 9 月 17 日には、SureColor 初のレジンインク搭載プリンター「SC-R5050/R5050L」と、UV インク搭載フラットベッドプリンター「SC-V7000」のリリースを発表。サステナビリティの時流に合わせた展開は、溶剤機の領域にとどまらないインクジェットプリンター市場でのさらなるシェア獲得につながっている。

本誌では、「SC-R5050/R5050L」の導入ユーザーである昭栄美術のスタッフにインタビューし、マシンの評価ポイントや秘める可能性を追求していく。



① そのまま古紙回収できるインクジェットメディアによる壁面装飾。SC-R5050L は、貼り合わせた部分が分からないほど、ズレのない印刷で現場施工を容易とする
② 合成紙とスチレンボードによるイベント装飾。ラミネート加工が不要となる擦過性の高さも同機の評価ポイントだ

ディスプレイ製作の現場に欠かせないプリンター 小ロット案件をスピーディーにこなす手離れの良さを評価

展示会・イベントのディスプレイ企業として、国内有数の生産体制を数く昭栄美術。2019 年にはさらなる品質向上と効率化を図るため、9 つの部署を 1 拠点に集結し、千葉・市川に「SHOEI ベイスタジオ」を新設した。その総敷地面積はサッカーコート約 5 面に相当する、2 万 6,000㎡超を誇る。2020 年には環境へ配慮したイベント運営のマネジメントシステム「ISO 20121」を取得している。2022 年には脱炭素に向け、大規模な太陽光発電を導入し、同スタジオで使用している電力の 60% を自家発電化。2025 年までに 100% グリーンエネルギーでの稼働を目指す。

同社と言えば、ファブリックサインの先駆けとしての地位も堅い。その商標登録数は「テンションファブリック」に加え、「同システム」「同ライト」の 3 つに及ぶ。さらに SDGs への貢献では、2015 年にディスプレイ造形をリユース可能と

した独自システム「ユニットプラン」を開発。国連で SDGs が採択される前に、持続可能なイベントづくりを顧客に向けて発信するなど、常に時代を先読みした取り組みを行ってきた。そんな同社が今最も注目している大判プリンターとは、何か。

それは、エプソン販売のレジンインク搭載プリンター「SC-R5050L」だ。2022 年 10 月に 3 台、2023 年 3 月にも 3 台導入。主力機として 6 台新設されて以来、月平均で 1 台あたり約 600㎡の出力量をこなし、ほぼフル稼働させている。同社では 2018 年にも、エコソルベントインク搭載プリンター「SC-S80650」を 2 台導入。今回のレジン機と合わせて、その生産性や扱いやすさを高く評価しているという。

ここからは、エプソンプリンターの魅力について、現場の担当者に詳しく話を聞いていく。

——まず先に、2018 年に 2 台導入した SC-S80650 の評価はいかがでしょう

吉永：悪いところが一切ない印象です（笑）

矢島：他社の溶剤機では、グレーなどを出力する際に赤っぽく色転びしていたものの、そういったプリントミスが全くないですね。多色機なのにスピードも 2 倍ぐらい速い。色味や納期が難しい案件でも、SC-S80650 で出力すれば間違いないと長年重宝しています。

——この 5 年間でサポート体制に対する印象はどのように抱いていますか？

矢島：連絡すると、すぐに対応してもらえていますね。パーツの交換でも長く待たされる印象はないです。

吉永：メーカーさんによっては、担当者がかけてくれたのは良いものの、その場で直らないこともあります。こうなると、ダウンタイムは長時間に及び、もはや仕事になりません。エプソンさんでは、そういった経験が今までないので安心して業務に取り組めています。



第 1 製作部 サイン課 アクリル課
課長代理 吉永康倫 氏

第 1 製作部 サイン課
主任 矢島寛人 氏

——それでは今回、SC-R5050L を導入した背景を教えてください

吉永：当社では、展示会やイベントの産業廃棄物を少しでも減らすため、さまざまな取り組みを展開しています。この一環として、出力後のラミネート加工をなくしていきたいと考え、インクの擦過性に優れる SC-R5050L を導入しました。産廃の問題だけでなく、ラミネートの工程がなくなれば、生産効率の向上やコストダウンも図れます。加えて、メディアの送り精度といった SC-S80650 の操作性の高さを引き継いでいる点も大きかったですね。

矢島：SC-R5050L は、データを送ってから印刷するまでの流れが非常に簡素です。私は、その手離れの良さを高く評価しました。これは当社のようなディスプレイ業者には、とても大切な要素です。実際のデザインデータが入稿されるのは、大半はイベント期日の 1 週間前ぐらいで、1～2 日前もザラです。このような仕事をこなすのに、手離れの悪いプリンターでは立ち行きません。ですから、溶剤機にはない速乾性も嬉しいポイントになりますね。

——導入後の使用感はいかがでしょう

矢島：私たちはイベントなどの案件が多いため、大半の出力物は小ロットになります。このため、メディアの入れ替えは頻繁にしなければなりません。その点、SC-R5050L はメディアのセットが本当に簡単で、ロスも少なく、すぐく助けられています。導入してからというもの、飛躍的に生産効率が上がったと肌で感

じています。

吉永：どうしても新しいプリンターを導入すると、慣れるのに時間がかかることから、実際の現場では敬遠されがちです。それが初日から抵抗感なく、オペレーター全員が扱いやすそうに操作していたのは印象的でした。

矢島：実際に使ってみると、やはり発色の良さは別格ですね。案件によっては溶剤機で出力していたようなものも、今後は SC-R5050L で対応できるのではないのでしょうか。出力後の粒状感もほとんどないですし、さまざまな可能性を持っていると感じています。

——具体的に、イベントのどのような製作物を出力しているのでしょうか？

矢島：主に、ブースの壁面装飾やサイン類を出力しています。使用しているメディアは、経師紙や合成紙がほとんどです。レジンインクは高温硬化タイプですが、非常に薄い経師紙でも、しわになったりせずにインクを定着できるなど、素材対応力にも優れています。今後は、コルトンや内装関連の出力も増やしていきたいと考えています。

吉永：加えて、送りの精度に優れるため、ブース全面にメディアを貼り合わせ際でも、印刷のズレが全く気にならなくなりました。3～5mm のズレを考慮して、かなり慎重に分割面を選んでいた従来の手間が簡単に解消されましたね。

——今後の展望を聞かせてください

吉永：クラウドサービス「Epson Cloud Solution PORT」の有償版では、複数台への分散印刷や遠隔地から出力指示が出せると聞いています。そういった機能にも興味があります。

矢島：今回、ソフトウェア RIP「Epson Edge Print」と測色器「SD-10」も同時に導入しました。これにより、とても色合わせがスムーズになりました。特に、Epson Edge Print の「スポットカラーマッチング」機能は、SD-10 で色を計測すると似た色合いのカラーパッチを一覧で印刷でき、色合わせが簡単にできるので大変助けられています。これらの機能もより活用していきたいですね。

吉永：このようにエプソンさんはプリンターだけでなく、次々と生産効率を向上させるサービスも提供してくれています。ゆくゆくは、もはや工程全体を自動化してもらえるのでは、と期待しています（笑）



現在保有する大判プリンターは、主力機のレジンインク搭載機「SC-R5050L」をはじめ、エコソルベントインク搭載機や UV インク搭載機など計 21 台

SC-R5050 / SC-R5050L

インク種別：レジンインク

出力解像度：最大 1,200 × 2,400dpi

出力速度：【ターボリン・壁紙】21.0㎡/h（6Pass）、【塩ビ粘着・合成紙・その他】15.1㎡/h（9Pass）、【布】9.5㎡/h（14Pass）、【フィルム】5.2㎡/h（26Pass）

印字幅：最大 1,616mm

インク色数：シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、ライトシアン、ライトマゼンタ+オプティマイザー

外形寸法：W2,949 × D1,045 × H1,605mm（最小時）

重量：SC-R5050 425kg / SC-R5050L 449kg

標準価格：2,520,000 円 / 3,050,000 円（いずれも税別）

エプソン販売株式会社

問い合わせ先：050-3155-8100

プリンター購入ガイドインフォメーション

受付時間：平日 9 時～17 時半（同社指定休日除く）

